

## 軽自動車税の税率改正について

地方税法等の一部改正により、平成27年度から原動機付自転車、軽自動車、小型特殊自動車及び二輪小型自動車の税率が引上げられます。



### 原動機付自転車及び二輪車等

すべての原動機付自転車及び二輪車等は、平成27年度の課税から次の表の改正後税率が適用されます。

種 別	税 率 (年額)		
	現行税率	改正後税率	
原 動 機 付 自 転 車	50cc以下のもの (ミニカーを除く)	1,000円	2,000円
	50ccを超え90cc以下のもの	1,200円	2,000円
	90ccを超え125cc以下のもの	1,600円	2,400円
	ミニカー	2,500円	3,700円
軽 自 動 車	二輪で総排気量が125ccを超え250cc以下のもの (バイク、トレーラーなど)	2,400円	3,600円
	もっぱら雪上を走行するもの	2,400円	3,600円
小型特殊自動車	農耕作業用のもの	1,600円	2,400円
	その他の特殊作業用のもの	4,700円	5,900円
二輪の小型自動車 (総排気量250ccを超えるもの)		4,000円	6,000円



### 四輪以上及び三輪の軽自動車

初めて車両番号の指定を受けた時期 (車検証の「初度検査年月」) により、現行税率、新税率、重課税率のいずれかの税率が適用されます。

種 別	現行税率	新税率	重課税率
軽自動車	三輪のもの	3,100円	4,600円
		3,900円	5,500円
	四輪以上のもの	5,500円	6,900円
		7,200円	10,800円
乗 用	3,000円	4,500円	
	4,000円	5,000円	

※平成27年3月31日以前に登録した車両は、初度検査年月から13年を経過するまで現行税率が適用されます。

※新税率は平成27年4月1日以後に新車新規登録となった車両から適用されます。

※重課税率は初度検査年月から13年を経過した車両が対象で、平成28年度の課税から適用されます。

☎ 税務課 町税係 (42) 2113

## 「しってる? 地方税」(全国地方税務協議会26年度テーマ)

11月11日~17日は「税を考える週間」です。皆さまに税の仕組み、使い道や必要性について考えていただき、国税や地方税に対する理解を一層深めていただくことを目的として設けられた週間です。

税金は、地域の住民や企業の皆さまに負担していただいております。私たちの生活する地域をより豊かで住みよい社会にするための大切な財源となっております。ぜひこの機会にご家庭や職場などで税の仕組み、使い道や必要性について考えてみませんか。

☎ 税務課 (42) 2113

## 私のひと言



矢吹町長  
野崎吉郎

「やったぞノーベル賞」

「湯川秀樹」の名前を意識したのは、多分、小学3、4年生の頃だったと思う。朝永振一郎博士が、日本人二人目のノーベル賞を受賞したことで、初めてノーベル賞の存在を知った。当時は単に凄いことだ、世界一偉い人の賞だという位しか、考えておらず、中間子論、量子力学がどうのこうのといった受賞の意義や価値については、何も分からず仕舞いだ。ただ、ノーベル賞って凄いことなんだなっていうことを強く意識したことは、間違いない。その影響からか、湯川秀樹、キュリー夫人やエジソンに至るまで、数多くの名だたる偉人の伝記物語を読みあさったことが、今記憶として甦る。川端文学への傾倒も受賞が大きく影響している。中学生の頃の思い出だ。彼らの人となり、業績についても、その当時得た浅薄な知識が、今も私の基となっている。その時以降、特に彼らについて詳しく

研究したこともなく、彼らの文献を読み込んだこともない。従って、彼らについて知り得る事はそう多くない。言えることは、ノーベル賞は容易く手に入るものではなく、私たちにとっては遙か彼方の手の届かない憧れの代物。しかし、同じ日本人として、その時々受賞の朗報は「やったぞニッポン!」「どんなもんだい!!」という気にさせてくれるから、やはり凄いこと。日本人としての誇りを大いに喚起させる存在がノーベル賞だ。今年のノーベル賞の受賞発表も期待していた。期待は「物理学賞」ではなく、実は「文学賞」だった。近年、毎年話題性の高かった、村上春樹氏の受賞を予想していたからだ。しかし、意に反してどうか、驚きというか、私たちに全く予想もつかなかった3名の名前が、新聞のトップを飾った。

受賞者である赤崎氏は、愚直なまでに信念を貫いた研究者。天野氏は、努力に努力を重ねたヒラメキの研究者。中村氏は、制約の多い日本を飛び出し、米国に自分の可能性を託した反骨の研究者。三人三様の三氏の受賞は、復興に勤しむ私たちに、正に明るい希望の光をもたらし、照らしてくれた。新聞やTVのニュースで三氏の生い立ちやエピソードを知った。皆さん既にご存知の方もあるでしょうが、敢えて書いてみる。

赤崎氏の一番弟子でもあり、努力の人、天野浩氏。静岡生まれの天野少年は、ソフトボールやサッカーに夢中となって過ごす。捕手やゴールキーパーなど「頭の脳的だが、余り走り回らないポジションが得意だった」という。高校時代は、数学の問題を解くことに快感を覚え、2年生の時に、3年生の教科書と参考書の問題を全て解き終えたという。大学3年生に赤崎教授と出会った。「未来のための研究だ」と直感し、「誰もがまだ成功しておらず、自分が一番になれる可能性がある」と感じ、休日返上、連日、朝7時から夜10時まで研究に没頭。実験の数度に3000回を超す。失敗に失敗を繰り返すに、ヒラメキと共に実験を成功に導いたまさに努力の人だ。

そして、中村修二氏。愛媛の漁村に生まれる。少年時代は、海や山を駆け回って遊んでばかり。学校の勉強は、暗記物が最大の苦手。腕アトムなどの「お茶の水博士」を見て、ロボットなどを作る科学者に憧れたという。地元を卒業して、元の名もない会社で就職。クビを覚悟で、不可能と言われた青色LEDの製品化に挑む。製造の知識を得るため、米国の大学に短期留学。一人前の研究者として扱って貰えず、悔しい思いも経験。「こんなやつらに負けてたまるか」と、負けず嫌いの性格に火が付き研究に没頭。会社からは別の研究に変更するよう指示されたが、研究を継続。その反骨魂が実を結び、遂に青色LEDの製品化に道を開いた。